

京都府立医科大学附属病院で大腸切除を受けられた患者様・ご家族の皆様へ

ヒト大腸癌における膜輸送体タンパク発現の臨床的意義についての検討 に関する研究へのご協力をお願い

今回、京都府立医科大学は、大腸癌症例において膜輸送体タンパク発現の臨床的意義についての検討に関する研究を実施いたします。そのため、過去に京都府立医科大学附属病院で結腸・直腸切除を受けられた患者様の診療録を過去にさかのぼって調査させていただきたいと考えています。

研究の目的

近年の分子構造機能解析の進歩とともに、イオンチャネルや水チャネルに代表される膜輸送体等の細胞生理学的因子が様々な病態に関与することが解明され、癌形成・進展における役割も注目されています。膜輸送体には利尿薬・降圧薬・抗不整脈薬として広く臨床応用されている阻害剤が存在しており、これらの抗腫瘍効果に焦点をあてた新規治療法の開発についても期待されております。今回我々は、膜輸送体タンパクの発現の程度を確認し、大腸癌症例において膜輸送体タンパク発現の臨床的意義について検討します。大腸癌症例の予後について、更なる層別化を可能にすることで、より患者さん個々に応じた適切な治療を提供できる可能性が考慮され、本研究を行うことにより、今後の消化器癌診療の更なる治療の質の向上に寄与しうると考えております。

研究の方法

・対象となる患者様について

平成12年1月1日から令和2年12月31日までの間に、京都府立医科大学消化器外科で大腸癌に対し結腸・直腸切除術を受けられた患者様が対象となります。使用させていただく試料・情報に関しては、切除標本の一部、性別、年齢、既往歴、病理診断結果、治療経過内容等になります。

・方法について

膜輸送体タンパクの発現の程度を確認し、大腸癌症例において膜輸送体タンパク発現の臨床的意義について検討します。

・試料・情報の管理について

氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し研究用の番号を付けて取り扱います。患者さんと研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、京都府立医科大学消化器外科学教室内の施錠可能な場所に存在するパソコンに保存します。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

・試料・情報の保存および二次利用について

カルテから抽出した情報や血液や病理組織などの試料は原則としてこの研究のために使用し結果を発表したあとは、京都府立医科大学消化器外科学教室内の施錠可能な場所において大辻英吾の下、試料は5年・情報は10年間保存させていただいた後、研究用の番号等を削除し、廃棄します。

保存した試料・情報を用いて将来新たな研究を行う際の貴重な試料や情報として、前述の保管期間を超えて保管し、新たな研究を行う際の貴重な試料・情報として利用させていただきたいと思います。新たな研究を行う際にはあらためてその研究計画を医学倫理審査委員会で審査し承認を得ます。

ご自分、あるいはご家族の情報を本研究に登録したくない場合は、2022年12月31日までに下記連絡先までご連絡ください。試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

ご希望があれば、個人情報の保護及び本研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができます。その場合は、下記連絡先までご連絡をお願いします。

本研究は、京都府立医科大学医学倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

連絡先

京都府立医科大学消化器外科

助教・清水 浩紀 電話：075-251-5527

対応可能時間 平日 9時から17時